

平成30年度 石川県立飯田高等学校学校評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 生徒の多様な進路希望を実現するために主体性の醸成による相応な学力養成	① 教員の授業改善と生徒の進路意識の向上を図る。	各教科 各学年 進路指導課	昨年度、学習到達度を測るための模擬試験結果は、1学年60以上12.4%、55以上24.7%、50以上48.3%でB評価、2学年は60以上6.9%、55以上21.6%、50以上47.4%で、C評価であった。総合ではB評価となった。	【成果指標】 1・2年の1月模擬試験で、英数国総合の偏差値60以上が10%、55以上が20%、50以上が50%を目指す。 (学年毎)	普通科の各学年で10%、20%、50%の基準を A:すべて達成した B:2つ達成した C:1つ達成した D:すべて達成できなかった	C以下の場合は学年会、教科で指導体制を検討する。	
	② 進路実現可能な学力を身につけるために自立的学習習慣を定着させる。	各学年 進路指導課	学年+1時間の学習時間を推奨している。1,2年ともに学習時間増加への取組意欲は高い。	【成果指標】 予習・復習を習慣化させ、家庭学習を充実させる。 (学年毎)	進路アンケートで日々の学習時間を確認し、学年+1時間を達成している生徒の割合が、 A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	C以下の場合は学年会・教科で指導体制を再検討する	
	③ 公務員志望者が幅広い知識と、情報処理能力を身につけ、実際の公務員試験に対応できる力を育成する。	各教科 進路指導課	自然科学・判断推理・数的推理など個別の分野で弱点を持つ生徒が多く見られるので、個々人の弱点を克服させながら学力の底上げを図る必要がある。	【成果指標】 公務員模擬試験において総合判定でBランク以上の生徒の割合を指標とする。	公務員試験直前の模擬試験においてBランク以上の生徒の割合が A:60%以上 B:40%以上 C:30%以上 D:30%未満	C以下の場合は進路及び、各教科で取組を再検討する	
	④ 研究授業、互見授業を通して、探究的な学習活動や質の高いグループ学習を取り入れた効率的かつ効果的な指導法の改善を押し進める。	教務課	生徒が主体的・協働的に活動する場面が十分ではなく、ICT機器の活用や主体的、対話的な深い学びへ導くために、教員の授業改善や教材の工夫への意識を更に高める必要がある。	【努力指標】授業改善に生かす目的を持ってICT機器を活用した授業を実践し、研究授業や互見授業に取り組む。 【満足度指標】授業を通じて学力(知識や技術)がついて来ていると実感できる。	ICT機器の活用など授業に工夫が見られるという肯定的評価が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満 授業を通じて学力(知識や技術)がついて来ているとする肯定的な評価が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	C以下の場合は取組を見直す。	教員からの取組アンケートで評価 生徒による授業評価アンケートで評価

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成判断基準	判定基準	備 考	
2 人間関係力の向上による学校全体の組織力の強化と地域に愛される学校づくりの推進	①	HR活動や委員会活動をとおして、集団づくりや人間関係づくりを進め人間関係力を育てる。	生徒指導課 全職員	生徒会執行部が中心となり、学校行事は充実したものとなっている。しかし、各種委員会や生徒一人一人の関わりがまだまだ弱く、生徒全体で十分な意見を交わし、取り組む余地がある。 また、人間関係力を高めることにより、生徒が互いに尊重し合う心の涵養につながり、いじめ防止にも結びつく。	【成果指標】 ①十分な意見交換 ②組織的な取組 自己評価により、達成状況をみる。	校内の活動で、十分な意見交換や共働した取組が日常的に達成できた割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C以下の場合は、指導を見直す。	年2回(9月・1月)アンケートを実施する
	②	携帯電話・スマートフォンの使用ルール遵守と1日の使用時間を削減する指導を進める。	生徒指導課 全職員	携帯電話等に伴う課題が多く、SNS利用5ヶ条を知らない生徒もいるので、使用ルールをきちんと守る習慣を身につけさせたい。 また、携帯・スマホ使用が家庭学習時間を奪っている現状があり、昨年度の1人あたりの1日の使用時間が60分以上であった。今年度は30分以内を目標にしたい。	【成果指標】 ①使用ルールの遵守 自己評価により、達成できたかをみる。 ②使用時間 使用時間の調査から達成できたかをみる。	①日常的にスマートフォン等使用ルールの遵守が達成できた割合が A：85%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 ②生徒のスマートフォン等1人あたりの1日平均使用時間が A:30分以内 B:40分以内 C:50分以内 D:50分より長い	C以下の場合は、指導を見直す。	①年3回(7月・12月・3月)のアンケートを実施する。 ②年5回の調査を実施する。
	③	時間厳守の習慣の確立を目指し、「遅刻0運動」を継続する。	生徒指導課 全職員	継続した取組により年々理由のない遅刻数が減り、授業時のベル着・ベルスタートも確実に定着している。 学校生活のあらゆる場面で時間をきちんと守る習慣を更に高いレベルで定着させたい。	【成果指標】 毎週の遅刻集計結果を生徒玄関に掲示し、達成状況をみる。	「遅刻0の日」が年間合計で A:160日以上 B:150日以上 C:140日以上 D:140日未満	C以下の場合は、指導を見直す。	生活委員が毎週末に遅刻集計を行い、結果を掲示する。
	④	挨拶や服装・交通マナーなど基本的な生活習慣の定着について指導を徹底する。	生徒指導課 全職員	朝の挨拶運動や登校時の指導により挨拶ができる生徒の割合は高い。服装で指導を受ける生徒は、減少しているが十分とは言えない。	【成果指標】 ①挨拶運動による人間関係力の向上 ②集団生活における規律の遵守 自己評価により、達成状況をみる。	日常的に挨拶をしっかりとできたり、規則を守ることができた割合が A:85%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	C以下の場合は、指導を見直す。	年3回(7月・12月・3月)アンケートを実施する

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考	
3 普通科、総合学科それぞれの特長を活かした教育活動と相乗効果を生み出す教育の推進	①	進学希望者及び公務員希望者の進路実現を支援する体制を構築する。(普通科)	3学年 進路指導課	国公立大学76名、私立大学12名、短大専門学校17名、公務員12名、民間就職1名の希望者がいる。(普通科)	【成果指標】 年間を通して適切な学習指導等が行われ、その成果が顕れた。	年度末進路状況において、年度当初の進学希望者の進路希望が A:80%以上実現した B:60%以上実現した C:50%以上実現した D:50%未満であった 公務員希望者の A:70%以上実現した B:60%以上実現した C:50%以上実現した D:50%未満であった	C以下の場合は指導体制の見直しを行う。	
	②	個に応じた進学指導、公務員指導、就職指導を充実させ、ミスマッチのない進路選択をさせる。(総合学科)	3学年 進路指導課	私立大学2名、短大・専門学校18名、公務員2名、就職13名の希望者がいる。(総合学科)	【成果指標】 年間を通して適切な学習指導等が行われ、その成果が顕れた。	年度末進路状況において、年度当初の進学希望者の進路希望が A:90%以上実現した B:70%以上実現した C:60%以上実現した D:50%未満であった 就職希望者の内定を A:12月までに100%を得た B:1月に100%を得た C:2月に100%を得た D:3月以降に100%となった	C以下の場合は指導方法の見直しを行う。	
	③	「ゆめかな」の活動を通して、地域を知り地域に貢献しようとする活動を通して、生徒自身が自分で行動をおこせる力を涵養する。(普通科)	「ゆめかな」担当 1・2学年	地域の課題を生徒目線で捉え解決策を導こうとしてきている。 実施3年目で今までのプランを一つでも多く実現できるように外部に対しても積極的な働きかけが必要である。	【努力指標】 生徒自身が考えたプランを実現するために、各グループが外部団体に主体的な働きかけができたかを確認する。	夢の実現のために、外部団体に対して満足できる働きかけを行えた生徒の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	C以下の場合は取組を見直す。	生徒によるアンケートで評価

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 普通科、総合学科それぞれの特長を活かした教育活動と相乗効果を生み出す教育の推進	④	総合学科 商業科	これまで地域学Ⅰ等で、地域の方々と生徒が関わり、体験的行事やインターンシップを行ってきた。 また、年に数回、特定の行事の中で珠洲の実商店を運営し、販売実習を行ってきた。	【成果指標】 生徒による自己評価により達成状況を見る。	地域の方々との活動を通して、人間関係力が身に付いたと実感できた生徒が A:80%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満	C以下の場合は取組を見直す。	生徒によるアンケートで評価
	⑤	総合学科 商業科	昨年度の各種検定試験の合格率は全体で61.8%だったが、各種検定の1級等上位級の合格者が少なかった。 対策を検討し全体の合格率を高めるとともに、2年生で2つ以上、3年生で3つ以上の全商1級合格を目指す。	【成果指標】 1年間での資格取得率の結果と、生徒の取組状況を見る。	学年及び系列の目標とする各種検定資格に対する合格率が A:75%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満 学年の目標とする1級合格者の取得率が A:50%以上 B:30%以上 C:20%以上 D:20%未満	C以下の場合は、方策を見直す。	合格状況を調査する。
	⑥	普通科・総合学科の生徒が互いの学習活動を認め合い切磋琢磨し、学校を活性化する。	ゆめかな担当 総合学科 生徒会	履修する教科・科目の関係上、普通科と総合学科は、と「ゆめかな」の活動と「地域学」、「課題研究」など取り組む方法や手法は異なる。 校内においてそれぞれの学習成果について、相互に確かめ高め合う学校行事等が少ない。	【成果指標】 普通科・総合学科それぞれの活動を理解し高め合う場面を設定し、自己評価につなげる。	普通科(ゆめかな)、総合学科(地域学、課題研究)で行っている活動内容をお互いに理解し合う、仕掛けや場面設定を A:5回以上実施できた B:4回以上実施できた C:3回以上実施できた D:2回未満であった	C以下の場合は取組を見直す。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
4 効率でかつ効果的な業務や指導法の改善を推し進める	① 会議や校内研修を効率化することにより、生徒と向かい合う時間を確保する。	全分掌	会議の精選や時間短縮に取り組んでいる。 今まで以上に効率よく効果的な運営を行うために、資料作成内容・方法に加えて、会議時間を意識して協議する必要がある。	【成果指標】 会議の内容について、主担当が所要時間を設定し、その時間内での終了達成度を評価とする。	事前に設定した時間内に会議が終了した割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C以下の場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	
	② 学校教育活動についてホームページ、メール配信システムを通じて効率的かつ効果的に発信し、保護者や地域の方の一層の理解を得る。	総務課	ホームページ更新やメール配信をその都度は実施しているが、効率的かつ効果的であるかについては未検証である。	【満足度指標】 学校の情報提供に対する満足度85%以上を目指す。	学校の情報提供は効率的かつ効果的に行われているという保護者が A：85%以上 B：80%以上 C：75%以上 D：75%未満	C以下の場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	保護者による学校評価アンケートで評価
	③ 業務改善に取り組んでいることを地域、保護者に周知し理解を図る。	総務課	定時退校日、部活動休養日、リフレッシュウィーク、学校閉庁日など教員の多忙化改善の取組について地域、保護者に知られていない。	【努力指標】 地域、保護者に対して教員の多忙化改善の取組について説明する機会を年間5回設定する。	地域、保護者に対して教員の多忙化改善の取組について周知する機会の年間設定回数が A：5回以上 B：3回以上 C：1回以上 D：0回	C以下の場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	